

“There has been a **tremendous** amount of information [that shows the soybean’s ability <to reduce cholesterol>],” said Clare M. Hasler, director of the research program at the University of Illinois, / “and by lowering your cholesterol, / you lower the risks for heart disease.”
 According to Dr. Keith Block, / “The soybean is one of the most powerful medicines / and is a great food <to prevent disease>.”
 (it = the soybean) ...

関係代名詞 V'
不定詞の形容詞用法 同格
S V O
S V₁ C₁
V₂ C₂ 不定詞の形容詞用法

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

1. People with low cholesterol have less risk for heart disease than those with high cholesterol. ()
2. Dr. Hasler believes that soybeans are effective in reducing cholesterol. ()
3. Dr. Block thinks soybeans can supply nutrients and blood to cancer. ()

覚えておきたい表現

過去分詞の形容詞用法

ℓ. 5 : In one of the three clinical tests on humans **performed** at the university 「この大学で行われた人体を対象とした3つの臨床の試験のうちの1つでは」
 ・ performed at the university 「大学で行われた」: performed at the university は「行われた」という受け身を表し, 前にある tests を修飾している。performed の前に関係代名詞 that と were を補っても同じ意味になる。なお, on humans も tests を修飾している。

Ex. The pictures (that were) **taken** with this camera were beautiful. 「このカメラで写した写真は美しかった。」

主語の省略

ℓ. 12 : The soybean is one of the most powerful medicines and is a great food to prevent disease. 「大豆は最も強力な薬の1つであり, 病気を予防するための優れた食品です。」
 ・ and (it = the soybean) is a great food ... : この文は and でつながれた重文で, 前の節と後ろの節の主語が同じであるために省略されている。なお, ℓ. 10 の said の前も同様に主語 she が省略されている。

what he calls ~ 「彼が~と呼ぶもの」

ℓ. 16 : At Block’s private clinics, he uses **what he calls** “nutrition therapy” as one component for treating cancer patients. 「ブロックの個人診療所では, がん患者治療のための1つの要素として「栄養療法」と彼が呼ぶものを用いている。」
 ・ what he calls ~ 「彼が~と呼ぶもの」: なお, what you [we] call は「いわゆる」と訳すことができる。
 Ex. This is **what we call** a paradox. 「これはいわゆる逆説だ。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

①大豆の人体への効果

- ・大豆はコレステロールを下げる働きがある。
 → イリノイ大学の研究者ハスラー: 「そのことを示す情報は大量にある」

②大豆の有効性を示す1つの試験結果

- ・大豆抽出物50グラムを含む食品を毎日食べると4週間でコレステロールが下がった。
 ハスラー: コレステロールが高い人は診察を受けるべき。

◆ ℓ. 9 but 「しかし: 逆接」

- 大豆製品は総合的な健康改善戦略の一環として安全に導入できる。

③ブロック博士の主張

- ・大豆はがん患者治療にも役立つ。
 → 大豆はがんの増殖に必要な栄養や血液の供給を阻止する。

背景知識

●アメリカでの豆腐の普及

大豆食品と言えば, 日本人なら豆腐を思い浮かべるだろう。ところが, アメリカでは, つい20年ほど前まで大豆と言うと家畜のえさだという認識が強く, 豆腐はその淡泊な味なども手伝って「アメリカ人の嫌いな食べ物ナンバーワン」に挙がるという状況であった。

そんな中, ヘルシーな日本食として豆腐を売り込むためにアメリカを舞台に戦いを挑んだ日本人がいた。雲田康夫氏である。彼が現地アメリカで販売の陣頭指揮を取っていた商品である豆腐に, 生産が追いつかないほど注文が殺到するようになったのは1995年頃のことであったという。1995年に, ニューヨーク・タイムズ紙が大豆製品はコレステロールを低下させるのに役立つという記事を載せたり, 大豆たん白の摂取にがん抑制の効果ありという研究発表がニューヨーク・タイムズ紙やウォールストリートジャーナル紙の記事になったりしたこともあって, その年末には在庫切れを起こすほどの注文がアメリカのスーパーから寄せられた。それ以前にも彼は豆腐の形へのこだわりを捨て, 「トーフシェイク」というアメリカ人の好みに合った食べ方を提示するなどして販路拡大に取り組んでいたのだが, こうした報道などもあって1990年代半ばには, 彼が手がけてきた豆腐事業がアメリカで軌道に乗ったのだという。このようにして家畜のえさという大豆のイメージを引きずっていた豆腐も, アメリカ人の意識変化によって受け入れられるようになっていったのである。

【深めたい人に】: 雲田康夫『豆腐バカ世界に挑む』(光文社, 2006年)